



~~~~~  
卷 頭 言  
^^^^^^^^^^^^^^^^

茨城県市長会会長

松 岡 龍 雄

---

---

第11回国勢調査が、来る10月1日に実施されます。統計に立脚した市政推進の一翼を担う私としては、改めてこの調査の意義の深いことを痛感しております。理由は次のようなところにあります。まず第一に、1970年代は脱工業化時代、情報化時代、といわれております。生活全般について高度高密度化した社会になるであろうということです。

こういう社会に最も重要視されるものは、知識、情報即ち統計といつても過言ではないのです。このような意味から、今回の国勢調査は、情報化時代の幕明けとして特筆にあたいする統計調査であるといえましょう。

第二に国勢調査の歴史的意義をあげることができましょう。今回の国勢調査は第11回にあたりますが、第1回目の調査が大正9年ですからちょうど半世紀をむかえることとなります。この間、国勢調査結果の行財政面における利用価値が高く評価されていることは改めて申し上げるまでもありません。

特に、今回の調査は、本土復帰を目前とした沖縄も含まれますし、国連提唱の世界人口センサスの一環ともなっておりその意義をいつそう深いものとしております。

現在、市町村行政責任者の任務も刻々変ぼうをせまられております。昨年の地方自治法改正によつて、各市町村は、住民の豊かな生活を目標として、①市街地および集落の再編成など基礎的条件の整備、②生活環境や教育文化など住民の生活水準の向上、③農林水産業の振興など産業基盤の整備に重点をおき、地域の特性に応じた社会像を築き上げることを基本構想とした各市町村それぞれの個性に適合した10年単位の長期ビジョンとその実現のための行政計画の策定を推進することになっております。市町村自治体の機能として新たに地域社会の設計者としての役割が加わったわけです。いわゆる計画行政、誘導行政が地方自治体の基本的行政としてはいりこんでくることを意味しております。この計画行政、誘導行政は、事後処理的な従来の行政の性格をガラリと変え、未来を指向する先行的なものとなっており、現実の地域社会というキャンパスの上に、地域住民の支持を受けうる明るい未来図を描き出し、その実現をおし進めていくという大変創造的な要素が加わっております。

今回の国勢調査が、このような70年代地方行政推進の基礎資料として重要な役割を果たしてくれるものと確信するとともに、今回の調査にたづさわられる統計関係者のご苦勞に対し深甚なる敬意を表し大方のご協力を切にお願いいたします。